

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容、事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営、運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者、職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 和み
（ユニット名）	しらかみ棟
所在地 （県・市町村名）	秋田県能代市
記入者名 （管理者）	舛屋 きい子
記入日	平成22年3月15日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>和やかな心を軸に活動し、和やかな顔・和やかな言葉・和やかな振舞いを理念としている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>玄関、事務室、ホールに理念を貼り出し、日々目に付くようにして理念を常に意識し行動するように取り組んでいる。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議の開催や地元行事の参加などで、家族や地域の人々に理解してもらおうよう取り組んでいる。</p>	
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>天気の良い日などは散歩をよくしていて、地域の人々と笑顔で挨拶を交わすように努めている。また、地域の方々からは季節ごとに花や野菜の苗や季節の野菜をいただくなど、交流をいただいている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域の祭典時に当施設駐車場にて屋台等を行い、家族の方々も招待して皆で食事をしたり、また郷土芸能にも来ていただくなど、地域との交流に努めている。また、町内の運動会にも参加させて頂いている。</p>	

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	毎月発行している「なごみだより」を地域の皆様に見ていただき、認知症の理解や協力をしていただくよう取り組んでいる。		
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価を実施する意味を運営者、管理者、職員は良く理解しており、自己評価の段階では意見を皆で出し合いながら改善に取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、活動報告、施設概要、参加者の質疑応答を行い、意見をたくさん出していただきサービス向上に活かしている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議には市の福祉課職員に参加していただいているほか、施設での相談事項がある時は担当課を訪ねたり連絡し合うなど、サービスの質の向上に努めている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	運営者・管理者・職員は地域権利擁護事業や成年後見制度については必要性を理解しており、必要な場合にはアドバイス等、活用について支援できるようにしている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月開催している全職員参加の職員会議時に、高齢者虐待防止関連法の勉強会を行っている。		

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時や解約時は利用者や家族等に契約内容を再度説明し、不安点・疑問点を尋ね徹底して説明を行い、理解、納得を図っている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者が、管理者や職員に意見・不満・苦情をいつでも言える環境作りに努めている。外部者の訪問は特に制限を設けていない為、オープンに話す事ができる。不満等が出たときには職員会議等で話し合いをしている。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の利用料金の請求時に、ケース担当ごとに近況報告の手紙を同封し、健康状態をお知らせしている。また、個人ごとに預り金出納長を作成・発送しているほか、買い物や要望があれば随時家族等に連絡するなど、個々にあわせた報告をしている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>玄関に意見箱を設置している。契約時に渡す重要事項説明書に苦情・相談についての窓口を記載し、説明し運営に反映させている。(施設内苦情担当、苦情受付第三者機関、公共機関)</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月20日は正職員会議、月末前日には全体会議を開催して職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務表の作成にあたり、職員の希望等の話し合いを持ち、利用者の状況や行事に合わせて勤務の調整に努めている。</p>	

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>入居者それぞれにケース担当をつけて職員へ責任を持ってもらい目標を持った支援に努めている。離職者が出た場合は十分に引き継ぎを行い、利用者・家族に迷惑を掛けないようにしている。</p>		
<p>5.人材の育成と支援</p>			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員全員には研修や講習の案内を回覧等で案内し、自主的に参加したい職員には積極的に機会を与えるなど育成、トレーニングを進めている。</p>		
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域の能代山本地区のグループホーム協会に入会し、協会主催の会合には参加して意見交換などの交流を図っている。また、協会研修等にも参加するようにしている。</p>		
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>毎月行なっている正職員会議、職員会議に経営者も参加して職員の意見を聞き、ストレス軽減の環境作りに取り組んでいる。</p>		
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は管理者、職員の個々の努力や実績、勤務状況を把握している。管理者、職員には向上心を持って働けるように研修、講習等への参加にも努めている。</p>		

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者の要望、また家族とも連絡を取り合いながら両サイドの要望を最大限に生かせるように職員皆で話し合い、利用者との信頼関係を築くように努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>近場の家族は来設する機会も多く、報告や相談を受けながら話し合う時間を多く作っている。遠方の家族には電話、手紙、メールで連絡を取り合い、随時受け付け体制をとるように努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時は多様なサービスがあることを本人、家族と他のサービス利用について話合うよう努めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>安心したサービスを利用してもらう為に入所前には本人もしくは家族にホームを必ず見ていただき、重要事項説明書をもとに説明している。本人、家族等に納得していただいた上で入所していただき、職員が他の利用者との間に入り雰囲気徐徐に馴染めるように、また家族とも連絡を取りながら工夫している。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は利用者のできる役割を見つけ共に生活しているという立場を念頭に置き、作業や制作活動、レク等の時間を共に過ごしている。会話を多くし、お互いに誉めあい支えながら尊重しあう関係を築いている。</p>	

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族等のホームへの訪問に制限は設けておらず、電話や手紙も自由に活用してもらうようにしている。近況報告は定期的に家族等に行い、ホームと共に利用者を支える関係を築いている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	電話や手紙の他にも利用料金のお支払い時はできるだけホームに来てもらうなど、常に利用者と家族と連絡を取り合いより良い関係を築けるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の信頼している医師に受診しており、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。また友人への連絡や家族の人が馴染みの場へと連れて行くような関係に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	運営者、管理者、職員は利用者同士の関係を把握しており、個々が孤立せず利用者同士が関わりをもち、職員が中に入ったりしながら関わりを保ち支え合うよう努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても介護相談に応じており、また手紙などいただいたり、家族の方が来設してくれたりと交流を継続し、関係を断ち切らないようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居前の生活リズムを事前調査や家族との打ち合わせ等で把握し、集団生活の中で本人本位になるようにサービスの提供に努めている。また、家で使用していた茶碗や箸などを使用してもらうようにしている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>これまでの暮らしの把握については、本人や家族から生活環境や生きがいなどを聞き取っている。また、これまでのサービス利用の経過等についても把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>暮らしの現状把握は介護サービスを提供する上で一番大切で必要なことなので、総合的に把握するように努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本人、家族等から現状を聞いた上、利用者本人、家族、管理者、職員と話し合い、最終的に運営者、管理者、職員でケア会議を開きそれぞれのアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は3ヶ月に1回は短期計画の見直しを行い、6ヶ月に1回は長期計画を中心に正職員会議にてケア会議を開催している。また、本人、家族と話し合い新たなニーズが出た時や介護度が変更となった時など、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個別の日々の様子やケアの実践・結果は個々に介護記録として記入している。これら情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況変化に伴い、通院等必要な場合は柔軟に対応している。また隣の棟との交流も大切にし、2ユニットの機能性を活かしている。また、長広い2ユニット独自の廊下を活かし歩行訓練等をしている。行事やホーム内散歩で交互にユニット交流を深めている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	年2回行なっている消防訓練のうち1回は地域の消防署に来てもらい、消防訓練をしてもらっている。また、行事などの際は民生委員の紹介で大正琴を施設にて演奏していただいている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、他の介護施設等と連絡を取りながら本人、家族の相談に応じ、他のサービス情報の提供に努めている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホームとして必要性に応じて知識の確認や準備はできているが、包括支援センターと共同で行う権利擁護等の活用事例は発生していない。		

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が別の居所へ移り住む際には、利用者、家族、関係ケア担当者で十分に話し合いや情報交換を行って支援するように努めている。		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることのないよう言葉かけや行動を徹底している。更に、記録等の個人情報のプライバシーの確保、記録の言葉遣いについても徹底している。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者が本人らしい思いや希望を表せるように尊重し、共同生活の中で納得しながら暮らせるよう支援している。		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にし、好きな役割や希望した役割を無理強いせず一日一日を有意義に過ごしてもらうよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	出張理容店と契約しており、本人と家族の希望で行うことができ、また本人の望む店にも家族等の協力を得、希望に沿うよう支援している。		

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のできる範囲内で職員と一緒に役割分担をし、下ごしらえや準備、片付けをしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む食事やおやつ等、好みの物は利用者の体調や状況に合わせて提供、管理し、日常的に楽しめるよう支援している。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	できる限りおむつ使用を避けているが、必要な場合は尊厳を傷つけずにトイレ誘導を促し、排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調や要望にあわせ、基本週3回のペースで入浴を楽しめるよう支援している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣や日々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるように、かかりつけ医とも相談しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ができる範囲内で役割を持っていただき、生活歴や経験を活かせるよう、気晴らし、楽しみごとの支援をしている。		

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つ事の大切さは職員は理解しており、個々の預かり金は事務所で適切に保管し、希望時は職員同伴で買い物の機会を作り支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や本人の体調等にもよるが、散歩やドライブ、買い物等に誘い、戸外に出かけられるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事にて花見や紅葉ドライブ、お祭り、運動会等々を開催しており、普段行けない場所への気分転換の一環として支援している。また、家族と共に出かける機会づくりも支援している。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの電話の取次ぎや利用者が電話をしたいと要望した時は支援している。手紙は家族や利用者の友達からも来ることが多いが、利用者が希望したときは手紙を書くように支援したり、書けない場合は職員が代筆し支援するようにしている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等本人の馴染みの人たちがいつでも気軽に訪問でき、訪問していただいた際は居室やホール等で和んでもらい、お茶やお菓子を提供しながら心地よく過ごしてもらうようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行う必要なく、拘束しないケアに取り組んでいる。		

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	家族や地域の人々の自由な訪問や、利用者同士の自由な居室の行き来を自由にしている。鍵をかける事での心理的不安・閉塞感や家族、地域の人々にもたらす印象などデメリットを認識理解しているので鍵をかけないケアに努めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者のプライバシーに配慮しながら、日中は常に様子を見て把握し安全に配慮している。夜間は巡視やトイレ誘導を行い利用者の安全確保に努めている。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬やカッター、はさみ等の金属類はホームで管理している。台所の包丁類も、職員が台所を離れる夜勤時等は事務所で保管して安全を確保し、危険を防ぐよう努めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	防災訓練等を行なっている。また、ヒヤリハットを活用してミーティングを行い、事故防止に取り組んでいる。		
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	利用者の急変や事故発生時に備え、緊急連絡網や救急車の要請手順を作成し、全職員が認識し、急変や事故発生時に備えている。また救急車要請マニュアルを作成し、備えている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時等の避難訓練を実施している。避難場所は事業所の駐車場を活用し、地域の避難場所として活用できるようにするなど、地域住民の一員として協力を得られるように努めている。		

グループホーム 和み(しらかみ棟)


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者一人ひとりに起こりうるリスクについて、入居当初や訪問時に、電話等で家族に説明し、対応策について話し合い、支援している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝定期的にバイタルチェックを行い、利用者一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いたことは情報を共有し、対応に結び付けている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員は利用者一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法・用量について医師の説明や薬局の説明書により理解に努め、活用や服薬の支援と、症状の変化の確認に努めている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者の便秘原因や及ぼす影響を理解したうえで、予防の為に、食事の工夫、水分補給、散歩、歩行訓練など、体を動かす働きかけに取り組んでいる。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。また、食事前もうがいをしてから食事をするという流れにし支援している。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食べる量や栄養バランスを考慮し1日1,500キロカロリーを目標にした献立にしている。個人別に水分摂取量も記録し把握している。また利用者の状態に応じて、お粥やきざみ食にする等の支援をしている。		

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ予防接種については家族の了解の下、利用者全員に接種している。また感染症を防ぐため塩素系水(ハイター)を薄めた水で床、手すり、トイレ、風呂、台所等の衛生に努めている。加湿器も弱酸性次亜塩素酸水を使用しており、空気感染予防、湿度等にも気を付けるようにしている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防の為、台所、調理用具等の消毒、衛生管理を行い、食材は日々の買い物により新鮮で安全な食材を使用し、賞味期限等に注意しながら使用と管理に努めている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく安心して出入りができるように玄関や建物周囲の清掃、美化、美観に努めている。また、花壇や畑を整備する事により緑や木々が雰囲気や和みになり、外部の人々が訪問しやすい環境作りにも努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日掃除や消毒をし、清潔に保っている。利用者にとって不快な音や臭いや光がないよう配慮し、季節ごとにその時にあった飾りをするなど、季節感を取り入れて居心地よく暮らせるよう努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には利用者同士が思い思いに過ごせるようにソファを配置しており、テーブル、椅子等も利用していただき、思い思いの事を気軽に明るくできるように努めている。		

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族等が訪問した場合でも居室で語り合うことができる空間作りをしている。利用者や家族が使い慣れたもの等を活かして過ごしている利用者もいる。本人の要望でベッド就寝だけでなく臨機応変に過ごしやすいよう努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には換気扇を付けており、気になる臭いや空気のだよみがないように努めている。リネン交換時や入浴時等にも空気の入替えを行い、きれいな環境作りに努めている。温度調整は利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、廊下、風呂、トイレ等には手すりを付け、利用者一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した歩行や生活が送れるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室前には氏名とケース担当の顔写真を表示しており、混乱や失敗を減少させるように努め、声掛けや見守りしながら自立して暮らせるように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りの散歩や畑での作業、玄関前の芝生で椅子に座りくつろいだりして、様々な活動ができるように活かしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホーム 和み(しらかみ棟)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

グループホーム和みでは、入居者様が、家庭的な雰囲気の中で生活できるように、入居前の生活状況を把握し、畑作り、掃除など無理のない程度の作業をスタッフと一緒にできる環境作りをしています。

趣味の分野では、俳句、習字、折り紙、将棋、ぬりえ、編み物、カラオケなど自由に取り組める状況作りをしています。

また、年6回の音楽療法と、月3～4回の2ユニット合同でのレクリエーションをもうけ、月1回発行の「なごみだより」にお便りとしてのせ、一人ひとりの近況報告、個人写真と共にご家族へ郵送しております。

地域の祭典は、ホームの駐車場で郷土芸能を披露していただき、入居者様、家族、全職員、近隣住民の方々、ボランティアの方々や屋台風の食事、祭り料理をいただき交流を持っていただいております。

活動面においては、あくまでも強制的なものではなく、これまでに様々な体験をして生きてこられた大先輩の入居者様に、穏やかに過していただけるよう、興味のある事には参加できるような環境作りと和やかな心を持って接する介護に取り組んでおります。